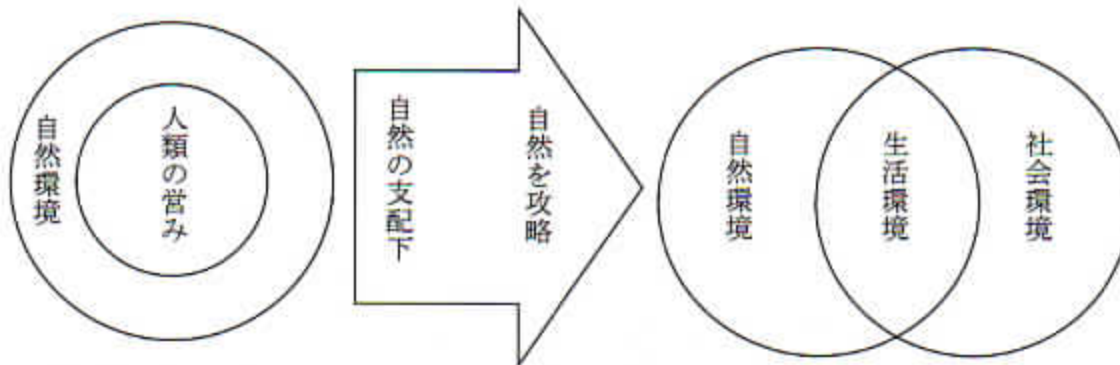


環境をイメージする～自然界と人間界～



「自然環境」に完全に取り込まれ、その支配下にあった人類は、やがて人類を主体とする「社会環境(社会構造)」を創造し、自然と向き合う中で繁栄してきました。そして、その交わる様々な活動シーンを「生活環境」としています。

国破れて山河あり..

ご存じ「杜甫」の“春望”の冒頭です。

この言葉から、人間の愚かな戦争など、とうてい及びもつかない大自然の悠久さ雄大さが伝わってきます。

・・時は流れ、やがて世界は産業革命から大きく変貌し始め、国同士の戦いは経済戦争と言う名のもとに、今なお拡大をし続けています。

・・そして今、北極海の氷の溶解は留まるどころを知らず・・氷河は溶けて湖と化し、草木も生えぬ砂漠化が進み・・湖は枯れて干上がり、そしてついには南海の小さな島が海に没しようとしています！・・これでも山河ありと言えるのでしょうか？

もはや戦いの勝ち負けなどとは無縁に、地球の大自然は崩壊を始めているのです。

たぐい稀なる、青く美しく光り輝く星、地球！！

ところが、このかけがえのない星の自然は、いま取り返しのつかない危機に瀕しています。それは、地球温暖化です。

「ある国の言い伝えに、“この星の自然は、大人たちが子供たちから借りているものです。

だから元のまま返さなければいけない”と、あるようですが・・・？」

『では、これ以上ひどくならないうちに、そろそろ・・・！』

「でも、もう手遅れでは・・・？」

『いや、少なくとも原形を留めている内なら、何とか・・・』